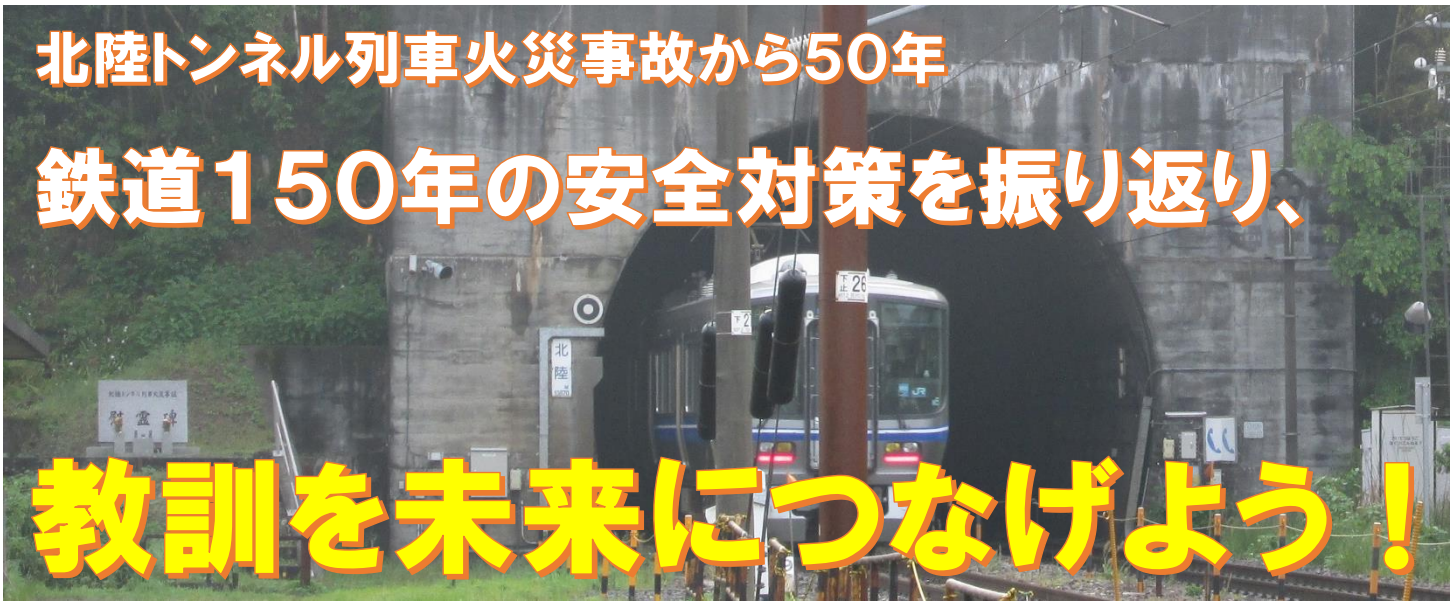
JTSU NEWS
日本輸送サービス労働組合連合会
JAPAN TRANSPORT SERVICE WORKERS UNIONS
2022.11.5
No.021
ホームページ　Twitter



北陸トンネル列車火災事故から50年

鉄道150年の安全対策を振り返り、

教訓を未来につなげよう！

１９７２年１１月６日、北陸本線の北陸トンネル内を走行中の５０１列車（急行きたぐに号）で列車火災が発生しました。

乗務員は当時の規定に則り、停止手配を行い、当該列車は北陸トンネル内に停車しました。停車後は列車防護、初期消火、火災車両の切り離し、避難誘導、救援列車による救助活動、さらに消防や警察、自衛隊などによる大規模な救助活動が行われました。

この火災事故により３０名（乗客２９名と機関士１名）が死亡、７１４名（消防署員や関係者を含む）が負傷しました。

犠牲となられた皆様のご冥福をお祈りいたします。

鉄道開業から１００年目に発生した事故はトンネルの長大化といった輸送力の増大に対する、安全対策の不備が指摘されました。

今年、鉄道は開業から１５０年を迎えました。現場では効率化が加速し、平時はもとより異常時への不安が指摘されています。さらに車内での緊急事態への対策が社会的に懸念されています。

事故発生から５０年を迎える今日、事故の教訓と１５０年の安全対策に向き合い、未来の安全に向けて、備えをつくりだそう！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS